

# 諫早駅 ▶ 諫早神社

Isahaya

諫早駅から徒歩約5分



列車でぶらり 自然と歴史めぐり 諫早駅〜諫早神社



諫早神社の前を流れる本明川(上)と  
宮司の宮本健一さん(下)



クスノキに守られた境内を歩けば、心が落ち着く。  
お参りの時間をゆっくりと楽しみたい。

「健康」の神様をお祀りしている諫早神社には  
疫病退散のご加護があるようにと  
「大きき日本一のアマビエさま木像」が奉納されている。



一粒万倍日は手元にあるわずかなものが何倍にも膨らむとされる縁起のいい日。この日だけに頒布される毛筆のみで描かれた限定御朱印(上)と、西九州新幹線「かもめ」開業を記念した御朱印(右)。



花鳥風月シリーズの3月の御朱印はソメイヨシノ(左)とムソゴロウ(右)。



諫早名物「おこし」とコラボした「神社おこし」と長崎県産のショウガを使った「神社エール」。



「アマビエ」や「うないさん」をモチーフにしたおみくじ。真ん中は2023年限定の「イチゴうないさんみくじ」。

旅の安全を祈願し、御朱印をいただいた。諫早神社では、月ごとに変わる花鳥風月シリーズや一粒万倍日(当日限定)など、実に多彩な御朱印がある。そのどれもが素敵なデザインで、思わず集めたくなくなってしまった。また御守もオリジナルのものが多く、選ぶのが楽しい。「明日もまた来たい」と思っているだけの神社にしたい」と話すのは、宮司の宮本健一さん。「神社は日本や地域の文化を発信する場でもあると考えています。例えば、長崎がショウガの発祥地であるという説があります。このことを知ってもらいたいという思いから、「神社エール」として『神社エール』

ル」や「神社カステラ」といった、ショウガを使った御神饌(供え物)をご用意しました。諫早神社では月参りや節分など、伝統的な年中行事の活性化を図っているほか、地域活性化プロジェクトとして、諫早のゆるキャラ「うないさん」をあしらった絵馬・おみくじや、新幹線開業記念の御朱印を頒布するなど、地域の人たちと連携しながら、さまざまな取り組みを行っている。宮本さんは「今後は、神社だからこそ感じられる文化について考えていきたいです。みんなで一緒に地域を盛り上げていきたいですね」と笑顔を見せた。

諫早神社は九州の守り神を祀る神社で、地元の人からは「お四面さん」として親しまれている。創建から千二百九十五年の歴史を有し、境内にそびえる巨大なクスノキは、神社を創建した行基によって植えられたと伝わる。風が吹くたびに葉音を立てるクスノキにしばし癒された。

大 村湾の美しい風景を堪能したいと、初めに選んだのは列車の旅。JR長崎駅をスタートし、のんびり佐世保方面へと向かう。車窓から見える風景はのどかで、一瞬にして日常を忘れさせてくれる。まず降り立ったのは諫早駅。二〇二二年九月二十三日、待望の西九州新幹線「かもめ」が開業し、盛り上がりを見せている駅のひとつだ。新幹線開業に合わせてモダンに生まれ変わった駅舎を後に五分ほど歩くと、諫早神社にたどり着く。

## 新しくなった 諫早のまちと お四面さんと。



新しくなった諫早駅

